

講座名	「徳」の倫理学と現代の諸問題	
実施期間・回数	平成 30 年 9 月 8 日 (土) 15 時 00 分～17 時 00 分	全 1 回
会 場	(学内) 【 201 中講義室 】	
主催者	宮崎公立大学 助教 川瀬和也	
講 師	(職氏名) 九州大学 助教 酒井健太朗	
共催者		
後 援		
その他スタッフ	宮崎公立大学 助教 川瀬和也	
受講者負担	(受講料) 【 0 円】	
配付資料等	あり (スライド資料)	
募集定員	50 名	
(募集条件)		
参加者数	受 講 者 数 : 16 名	
【講座の内容】	<p>「徳」概念の古代から近代までの受容の歴史をたどった後、現代の医療や環境、ビジネス等の領域における最新の倫理的諸問題に、「徳」の倫理学がどのような知見を提供しているのかを紹介する。外部講師（九州大学助教・酒井健太朗）の講義の形で実施した。</p>	
【講座風景写真】		
【講師コメント】	<p>関心の高い受講者の方が集まり、質疑応答も活発で、倫理について考えて頂くよい機会となつたと思います。</p>	

平成 30 年度 宮崎公立大学自主講座

「徳」の倫理学と 現代の諸問題

九州大学でアリストテレスの研究を続けてこられた酒井先生と一緒に、「徳」について考える講座です。哲学を初めて学ぶ方を歓迎します。

平成 30 年 9 月 8 日 (土) 15:00~17:00

講師：酒井健太朗（九州大学・助教）



企画・司会 川瀬和也（宮崎公立大学・助教）

会場 宮崎公立大学 研究講義棟 2 階 201 中講義室

参加費 無料

申込先 宮崎公立大学 地域研究センター 徳の倫理学と現代の諸問題係
※お名前・電話番号をご連絡ください。

(TEL) 0985-20-4772

(FAX) 0985-20-4773

(E メール) mmurrc@miyazaki-mu.ac.jp

※当日の参加も可能です。

問合せ先 宮崎公立大学 地域研究センター TEL 20-4772



講座名	インドネシアと日本の事例から英語教育について考える	
実施期間・回数	平成 30 年 10 月 7 日 (日) 14 時 00 分～17 時 00 分	全 1 回
会 場	(学内) 【 交流センター多目的ホール 】	
主催者	宮崎公立大学 教授 李 善愛	
講 師	<p>(職氏名) 北スマトライスラム大学： 教授 ジュミノ・スハディ、准教授 ダルマン・シテプ 宮崎市教育情報センター： 指導主事 片山弘喜 宮崎公立大学： 准教授 スコット・ビンガム、准教授 松本祐子</p>	
共催者		
後 援	宮崎県教育委員会、宮崎市教育委員会	
その他スタッフ	グローバルセンター主査 小林元気、学務課主事 元日田のぞみ	
受講者負担	(受講料) 【 0 円】	
配付資料等	シンポジウム要旨、講師の配付資料	
募集定員	30 名	
(募集条件)		
参加者数	受 講 者 数： 33 名	
【講座の内容】 日本やアジアでは英語教育に長年力を入れてきているが、2017 年の TOEFL iBT によると、中国や韓国、シンガポールやマレーシア、インドネシアに比べて日本は一番スコアが低い。その原因や方策を明らかにするため、日本とインドネシアにおける英語教育の現状について 5 名の講師が発表・質疑応答し、その結果、日本やインドネシア両国は共に第 2 言語としての英語教育にほぼ同じ課題を抱えていることが分かった。まずジュミノ先生は、言語教師の効果的な言語指導をするには言語学の基本と語学教育の方法を習得することであることを提案した。ダルマン先生は小学校から大学までの英語教育の実態を報告し、私立学校と公立学校、中央と地方における英語教育の格差を埋めるため、教師はなるべく職場では英語で会話することを心かけていると報告した。片山先生は、2017 年に新学習指導要領による小学校英語教育の変化に対応するための研修や支援をしている宮崎市の対応の現況を報告した。松本先生は、英語指導における学習者の母語使用を活用した方が英語指導の効果が高まることを言語習得理論と授業実践の観点から検証し、新しい英語指導法を提案した。最後にビンガム先生は、日本の英語教育効果を高めるためには多くの定職の英語教員の雇用と少人数教育のための経済的支援が肝要であることを提案した。		
【講座風景写真】 		
【講師コメント】 日本とインドネシアの英語教育の現状や課題について宮崎公立大学やインドネシアの英語教員、小学校英語教育を支援する行政の方など様々な立場の講師が英語教育について発表し、講師間の意見交換や宮崎県・宮崎市小中高校英語教員や高校生などの市民との意見交換を行う場が設けられたことに大きな意義があり、今後も多様で総合的な視点からよりよい英語教育の実現を目指して話し合う機会が頻繁に設けられ日本での英語教育の問題点が解決できる糸口になることを期待する。		



2018年度宮崎公立大学自主講座 国際シンポジウム

日時

10月7日(日) 13:30~

場所

宮崎公立大学
103大講義室

内容

- 13:30 開場
14:00~14:05 趣旨説明及び司会進行 李善愛 (宮崎公立大学)
14:05~14:25 Jumino Suhadi (Islam University of North Sumatra)
The Importance of Linguistics in Language Teaching
言語教育における言語学の重要性
14:25~14:45 Andang Suhendi (Islam University of North Sumatra)
Current Situation and Problems of English Education in Indonesia:
A Case Study at Islamic University of North Sumatra Medan-Indonesia
インドネシアにおける英語教育の現状と課題：メダン市UISUの事例
14:45~15:05 片山弘喜 (宮崎市教育情報研修センター)
日本の義務教育における英語教育の変化と宮崎市の現況
Changes in English Education in Japan's Compulsory
Education System and its Present State in Miyazaki
15:05~15:15 休憩
15:15~15:35 松本祐子 (宮崎公立大学)
A New Approach of L2 Teaching: Making the Best Use of Students' L1
第二言語指導への新しいアプローチ：学習者の第一言語活用
15:35~15:55 Scott Bingham (宮崎公立大学)
English Education in Japan: A Teacher's Wish List for a Better
日本の英語教育：より良い教師の願い事リスト
15:55~17:00 休憩 & 総合討論



アクセス方法

- 徒歩：JR宮崎駅から約25分
乗用車等：JR宮崎駅から約5分
電車：宮崎空港→JR宮崎駅下車→バス利用
バス：宮崎駅→公立大学前下車(徒歩1分)
宮崎駅→花殿町下車(徒歩5分)
宮崎駅→江平一丁目下車(徒歩25分)

問い合わせ

宮崎公立大学地域研究センター
連絡先：TEL 20-4772 FAX 20-4773
E-mail : mmurrc@miyazaki-mu.ac.jp
入場料：無料 (誰でも参加可)

主催：宮崎公立大学

後援：宮崎県教育委員会・宮崎市教育委員会

講座名	学校の「ともだち」の社会学	
実施期間・回数	平成 30 年 10 月 13 日（土） 14 時 00 分～ 17 時 00 分	全 1 回
会 場	(学内) 【凌雲会館 共同研究室 1・2】	
主催者	宮崎公立大学 助教 寺町晋哉	
講 師	(職氏名) 秋田大学講師・鈴木翔、神田外語大学講師・知念涉	
共催者		
後 援		
その他スタッフ	学生アルバイト 2 名	
受講者負担	(受講料) 【 0 円】	
配付資料等	スライド資料	
募集定員	50 名	
(募集条件)	高校生以上	
参加者数	受講申込者： 15 名 受講者数： 23 名	
【講座の内容】	<p>中学生・高校生の「ともだち」関係を教育社会学の視点から研究している講師 2 名を招き、標題の講座を行った。鈴木翔氏は「思春期の交友関係と学校—『スクールカースト』とは何かー」、知念涉氏は「いわゆる『一軍』の高校生からみるスクールカーストー〈ヤンチャな子ら〉とは誰かー」というテーマで話題提供を行って頂いた。</p> <p>各テーマにつき 1 時間の話題提供の後、フロアからの質問・意見に講師 2 名が応答する意見交換を 1 時間ほど行った。</p>	
【講座風景写真】		
【講師コメント】	<p>少人数だったが、参加者は非常に意欲的だった。テーマの内容からか、高校生の参加者が多くみられ、意見交換時には発言する方もおられ、講座全体は非常に充実していた。参加者からのコメントでは、中学生や高校生の人間関係を社会学的に考える視点が新鮮だったようで、非常に好評だった。今後も研究領域の知見を市民の方々へ還元できるように、様々な企画に取り組んでいきたい。</p>	

自主講座チラシ

平成 30 年度宮崎公立大学自主講座

学校の「ともだち」の社会学

学校の中での「ともだち」関係はどのように形成されるのでしょうか。普段の生活のなかで私たちは、自発的に「ともだち」をつくっていると考えがちですが、その背景には、教師や学校の存在、家庭の文化、ジェンダーといった様々な「力」が働いています。本講座では、中学生・高校生の「ともだち」関係を教育社会学の視点から研究しているお二人を講師に招き、話題提供していただきます。



2018年 10月13日(土)

【プログラム】

14:00~15:00

「思春期の交友関係と学校」

鈴木翔 (秋田大学)

15:00~16:00

「〈ヤンチャな子ら〉の学校経験」

知念渉 (神田外語大学)

16:00~17:00

意見交換

企画・司会 寺町晋哉 (宮崎公立大学)

申し込み・お問い合わせ先

宮崎公立大学 地域研究センター

〒880-8520 宮崎市船塚1丁目58番地 凝露会館2階

TEL: 0985-20-4772 FAX: 0985-20-4773

Mail: mmunro@miyazaki-mu.ac.jp

参加費

無料

対象・定員

高校生以上・50名程度

当日参加可

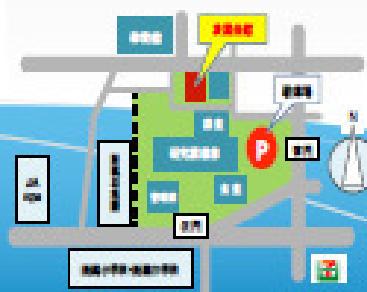
無料託児所あり

託児希望の方は、[お子様の氏名・年齢を明記](#)の上、[10月9日\(火\)](#)までにお申し込みください

会場

宮崎公立大学 凝露会館2階

下記地図参照



講座名	教育機関・地域と連携した防災教育（ストリートウォッチング）	
実施期間・回数	平成 30 年 11 月 6 日 (火)、11 月 13 日 (火) 8 時 00 分 ~ 13 時 00 分	全 4 回
会 場	(授業 3 回) 【 西池小学校 体育館 】	(調査 1 回) 【 中央西自治区内 】
主催者	宮崎公立大学 教授 辻 利則	
講 師	(職氏名) 宮崎公立大学 教授 辻 利則	
共催者	西池小学校、中央西まちづくり推進委員会、宮崎県ボランティア協会	
後 援		
その他スタッフ		
受講者負担	(受講料) 【 0 円】	
配付資料等	調査マニュアル等	
募集定員	205 名	
(募集条件)		
参加者数	小学校参加者： 170 名 (小学生 + 教員) 地域の参加者： 20 名 学生： 15 名	
【講座の内容】	<p>将来を担う子供たちへの防災教育として、平時から災害に備えた取り組みについて、高齢者、障がい者など含めて実践活動を行い、地域の役割、自分にもできることを理解してもらい、さらに子供たちを通して若い世代の地域参加を促すことを目的とする。</p> <p>講座の内容は、小学生を対象に、教育機関と連携し、地震や津波、洪水など災害時に必要な心構え、特に普段から考えておくべきことについて講座(35 人程度のクラスで 3 クラスを 3 クラスに分け、3 回)を行う。</p> <p>次に、実際に地域の危険箇所や災害時に重要な避難場所などを知るために調査(全体 1 回)を行う。調査は、地域住民、障がい者団体、そして本学の学生を募り、危険箇所、避難場所等を地図上に記入してまとめる。本年度は、5 クラスと多かったため、3 クラスに分けて行った。また、調査途中に取材する地域の施設についてもこれまでの 12 施設から 15 施設とした。</p>	【講座風景写真】 
【講師コメント】	<p>本年 6 月、大阪北部地震でブロック塀の下敷きになった小学生が亡くなった。その後、宮崎県内の公立学校のブロック塀などの緊急調査があり、塀の補強や撤去が行われた。このようなブロック塀は学校だけでなく、古い民家にも多くみられることから、今年はブロック塀など特に注意して調査するようにした。そして、本年度は危険な場所の位置ができるだけ正確に分かるように LINE の BOT を作り、調査する箇所を地図上に表示できるようにした。</p> <p>本年度も小学生たちは、地域の方、学生と一緒に自分の住む街を歩き、地区内の 15 箇所の施設の災害対策を学んだ。小学校の先生からは、「学校では学べない地域のことを学べ、児童たちは多くの発見があった」ということであった。学校と地域が一体となった本活動は、今後も継続していきたいと思う。</p>	

講座名	中原中也と高森文夫	
実施期間・回数	平成 30 年 12 月 15 日（土） 14 時 00 分 ~ 16 時 00 分	全 1 回
会 場	(学内) 【 交流センター 多目的ホール 】	
主催者	宮崎公立大学 准教授 楠田剛士	
講 師	(職氏名) 中原中也記念館館長 中原豊、宮崎公立大学 准教授 楠田剛士	
共 催 者		
後 援		
その他のスタッフ		
受講者負担	(受講料) 【 0 円 】	
配付資料等	年譜、レジメ	
募集定員	100 名	
(募集条件)		
参加者数	受講申込者： 29 名 受講者数： 25 名	
【講座の内容】	<p>はじめに楠田が、日本近代の代表的な詩人である中原中也と、宮崎出身の詩人である高森文夫の関わりについて学ぶという企画の趣旨を説明した。続いて、講師の紹介を行い、講座の流れについて説明した。</p> <p>次に中原氏による講演が行われた。まず前半は、「I. 中原中也と高森文夫—その交流」と題して、中原と高森の比較略年譜にしたがって二人の生涯を確認した。続いて、それぞれのエッセイ・詩を読みながら、交流の深さが語られた。プロジェクターとスクリーンを使って関連する画像も紹介された。</p> <p>休憩後の後半は、「II. 中原中也と高森文夫—その詩想」と題し、高森の詩と中原の詩について検討した。日夏耿之介の影響の大きさについて語られた。</p> <p>休憩時間中に参加者からの質問・コメント用紙を集めた。楠田が会の最後にそれらを紹介し、全体のまとめを行った。</p>	
【講師コメント】	<p>中原氏の講演は、中原と高森の交流を分かりやすく説明するものであった。参加者からは「中也が宮崎と縁があることをはじめて知った」「中原中也の話を久しぶりに聞いてとても懐かしかった」「高森と同郷だが、詳細は知らなかつたので良い機会となった」「広い意味での宗教性・神の感じ方があったということが参考になった」などの感想が寄せられ、実りの多い講座となった。また昨年の自主講座に引き続いで今回も無料託児を設けたが、利用者からは「子供と一緒に学びの場に参加しづらいが、集中して話を聞くことができ、今後もこのような機会が増えていけばよい」という意見をいただいた。</p>	
【講座風景写真】		

宮崎公立大学自主講座 (受講無料・託児あり)

中原中也 と 高森文夫

「サーカス」「一つのメルヘン」などで知られる近代詩人の中原中也と、
宮崎出身の詩人である高森文夫との関わりについて学びます。

講 師：中原 豊（中原中也記念館館長）

楠田 剛士（企画・司会、宮崎公立大学）

日 時：2018年12月15日(土) 14時～16時(13時半開場)

会 場：宮崎公立大学 交流センター・多目的ホール

対象・定員：一般市民・100名

申込方法：氏名(ふりがな)と連絡のつく電話番号を、電話かFAXまたはメールで
地域研究センターまでお申し込みください。

締 切：平成30年11月29日(木)

無料託児について

今回の自主講座では、交流センター内に無料託児所を準備します。託児希望の方は、
お子様の氏名と年(月)齢を明記の上、11月29日までにお申し込みください。

問合せ 宮崎公立大学地域研究センター ☎ 880-8520 宮崎市船塚1丁目58番地

申込先 電話:0985-20-4772 FAX:0985-20-4773 メール:mmurrc@miyazaki-mu.ac.jp

(この用紙はFAXのお申し込みにお使いください。)

氏 名	ふりがな	託児 申込	お子様の氏名
連絡のつく電話番号			お子様の年(月)齢 歳

※お申し込みの際にいただいた個人情報については適切に管理し、目的以外で使用することはございません。

講座名	第2回 地域のお宝発掘・発展・発信事業を考える	
実施期間・回数	平成30年12月23日(日) 9時00分～16時30分	全1回
会場	(学内)(学外) 【103大講義室】 【宮崎市下北方町内 平和台公園 景清廟 古墳群】	
主催者	宮崎公立大学 教授 永松敦	
講師	(職氏名) 北九州市立大学 廣川祐司、宮崎大学 根岸裕孝、南九州大学 竹之山慎一、下北方町婦人部長 大野春代、生目地区振興会文化部長 児玉浩志、滋賀県高島市水生の里ガイド 福田栄次、宮崎公立大学 永松敦	
共催者		
後援		
その他スタッフ	学生6名	
受講者負担	(受講料) 【 0 円】	
配付資料等		
募集定員		
(募集条件)		
参加者数	受講者総数： 70 名	
【講座の内容】		【講座風景写真】
1 フットパス (参加者約30名) 午前中、下北方地区のフットパスを行った。生目地区などから多数参加者がおり、30名以上が参加。盛り上がりました。平和の塔、前回の東京オリンピックの聖火台、ホタルの川を見て、景清廟、古墳をみながら帝釈寺へ、最後は日本遺産の出土遺物、耳飾りが発見された古墳を見て終了。		フットパス 平和台公園にて 
2 講演会「フットパスと地域創生」(参加者約40名) 13時から講演。講師は北九州市立大学地域創生学群准教授の廣川祐司先生「フットパスと地域創生」。フットパスの経済効果、交流人口の増加。基本的にはホストとゲストが対等の関係。何もつくりない、何も壊さないを合言葉に、静かに居住空間を歩かせていただくことが大事。そのコースは、住民と他者との合意によって定められる。その交渉過程が重要だという。その後、住民が気付いて縁側カフェなどを設けて、他者を受け入れるようになるという。		廣川先生の講演会 
3 シンポジウム 「地域創生に何が必要か?」(参加者約30名) (1) フットパスについて 講演の内容から住民が外来者との関係について議論。滋賀県高島市の「ここは観光地ではありません」と銘打ち、必ず有償のボランティアガイドをつける取組について議論した。住民の安心・安全と外来者との関心との接点をさぐった。		シンポジウム 

(2) コミュニティバスについて

参加された方からご指摘があったように、既存のバス会社の路線での競合はできない。各地域負担で採算があわないなどなど、問題が山積。ただ、経営方法（半官半民とか）、路線の工夫。史跡名所案内など、様々な取り組みが必要ではという提案。宮崎市長が選挙で公約されたのだから、パブリックコメントを是非とていただきたい。私は、長野県諒訪、熊本県阿蘇、滋賀県など様々なところで、コミュニティバスを利用するので、その実例を紹介して、その可能性を模索した。

(3) 持続性・経済性

滋賀県高島市は年間 7,000 人を集めている。見学料金は 1 人 1,000 円。単純計算すれば 1 年で 700 万の収入があり、ボランティアの方々には、地域振興券が渡される。このあたり、地域のお宝事業でも取り入れたいところ。

無償ボランティアでは限界がある。補助金ありきのイベント思考は財政を圧迫するだけ。いかに、外貨獲得するか、それが持続性につながるのではないかと、地元住民の方々も交えての議論。パネリストには下北方の婦人部長、生目地区の文化部長も参加しながら積極的に発言され、会場からの意見も多かった。

(4) 日本遺産の活用

滋賀県の事例をもとに、生目古墳群、耳飾りの出土した下北方古墳群をどのように活用していくか、有償ボランティアガイドの導入など、様々な観点から議論が及んだ。

今回は大宮地区・生目地区、さらには、日本遺産、水生の里 滋賀県高島市、北九州市立大学・宮崎大学・南九州大学、そして、宮崎公立大学から参加しての挑戦的な内容のフォーラムとなった。

【講師コメント】

北九州市立大学地域創生学群 准教授 廣川祐司

宮崎市民の身近な方々を、知らない魅力的資源や逸話がたくさんあることを、少しづつ分かってもらえたなら、嬉しいですね。フットパスと銘打って、実際に地域を歩いてみて、「思いの他、楽しかった！」と言っていただける方々を、少しづつ増やして行くことが目標です。これからも、宮崎を訪れたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。

会場



自主講座チラシ

宮崎公立大学 自主講座

12 / 23 SUN



午前の部

9時～10時30分 下北方町 フットバス
北九州市立大学地域創生学群准教授
廣川祐司先生と歩く
県清瀬～下北方古墳群～帝釈寺～
日本遺産認定の金製垂飾付耳飾り出土の古墳見学
集合9時 平和台公園レストハウス前バス停
10時30分～13時 会場 宮崎公立大学学生食堂
在来再来弁当（商標登録第5773170号）
「県清」試食会生目地区とコラボ！
(学長教量助成事業「宮崎県内全域の伝統野菜と在
来再来弁当」)
お弁当代 1000円
コメントター
南九州大学健康栄養学部 教授竹之山慎一氏

午後の部 103教室

13時10分～14時10分
講演「地域創生とフットバス」
北九州市立大学地域創生学群准教授
廣川祐司先生
14時30分～16時30分
シンポジウム 地域創生に何が必要か？
キーワード
フットバス・日本遺産・コミュニティバス・持続
性・経済性
バネリスト
宮崎大学地域資源創生学部准教授根岸裕孝氏
生目地区振興会文化部長児玉浩志氏
大宮地区婦人部 大野春代氏
鹿児島高島市水生の里（日本遺産）福田栄次氏
司会 永松敦
コメントター
廣川祐司氏、竹之山慎一氏

第2回 地域のお宝発掘・発展・発信事業 の可能性を探る 講演会・シンポジウム

